

どぼく散歩③

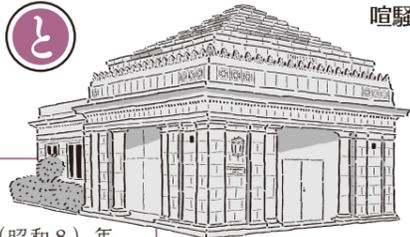
～上野～



東京都内の土木遺構と人気のエリアを訪ねる「どぼく散歩」。

今回のどぼく散歩は上野界隈のそぞろ歩き。生まれ変わりつつあるJRの駅舎から、地下鉄銀座線のリニューアルプロジェクト、地下鉄の踏切?まで、鉄道関連の散策ポイントが点在するエリアです。近年、街並みはどんどん新しく装いを変わっていますが、どこか懐かしい空気が漂う街の趣は変わりません。街並みの石垣や、リベットで組まれた高架橋から、大正、昭和の喧騒が蘇ってきます。

と



●京成電鉄博物館動物園駅跡

上野恩賜公園にあったこの駅は1933(昭和8)年、京成電鉄の開通時に開業しましたが、老朽化や利用客の減少により1997(平成9)年に営業休止、2004(平成16)年に廃止されました。東京国立博物館に隣接する出入口は国会議事堂のような西洋風の意匠が特徴で、2018(平成30)年に東京都選定歴史的建造物に選定されています。現在、上野エリアの新たなシンボルとして改修中。今秋には装いも新たに再びお目見えます。

ぬ



●不忍池は競馬場!

不忍池に面した上野動物園の西園は、緑豊かな落ち着いたエリア。この不忍池は、東岸にあたる上野のお山と西岸の本郷台地に囲まれた天然の池です。寛永年間、この地に寛永寺が建立されたころから園地として整備が始まりました。明治期には一部が埋め立てられ、池を周回する競馬場が整備された時期もありました。



桜のデザインが施された上野公園内のマンホール

●耐震補強が進むアメ横

400mあまりの商店街で耐震補強を施すことは容易ではありません。営業継続への懸念があることも事実ですが、平日でも数万人を超える来客があるアメ横の賑わいを目の当たりにすると、時間は掛かるかもしれませんが、そのハードルを越えるだけのエネルギーがこの商店街にはあるように感じます。



に

●JR上野駅

上野駅が開業したのは1883(明治16)年。その2年後にレンガ造りの駅舎が完成しましたが、関東大震災で焼失、木造の仮駅舎でのいだが、1932(昭和7)年に新駅舎が竣工しました。手掛けたのは「鹿島組」。本館基礎工では杭打ちをせず、6~9m掘り下げる工法が採用されましたが、掘削開始直後から戊辰戦争時の槍や刀剣、白骨が出土しました。事故も相次いだため大供養を執り行い、その後、工程は順調に進捗したといっています。



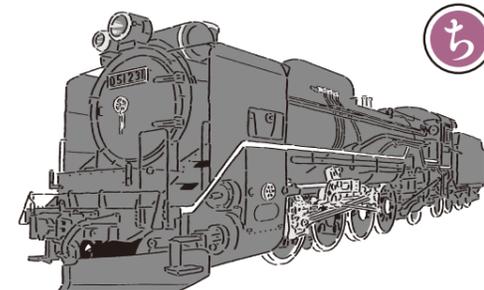
い



い

●コンコースにあるホームの名残

1階コンコースの改札側に、旧プラットホームの名残があります。鉄骨は切断されていますが、リベットや山型の屋根の跡がしっかり確認できます。電気ケーブルを渡すために残されたのでしょうか。その上を走るのは駅の東西を結ぶパンダ橋の桁。再整備されたコンコースに無骨な構造物。よく見ると不思議な光景です。



ち

国立科学博物館入り口に展示されているD51形蒸気機関車

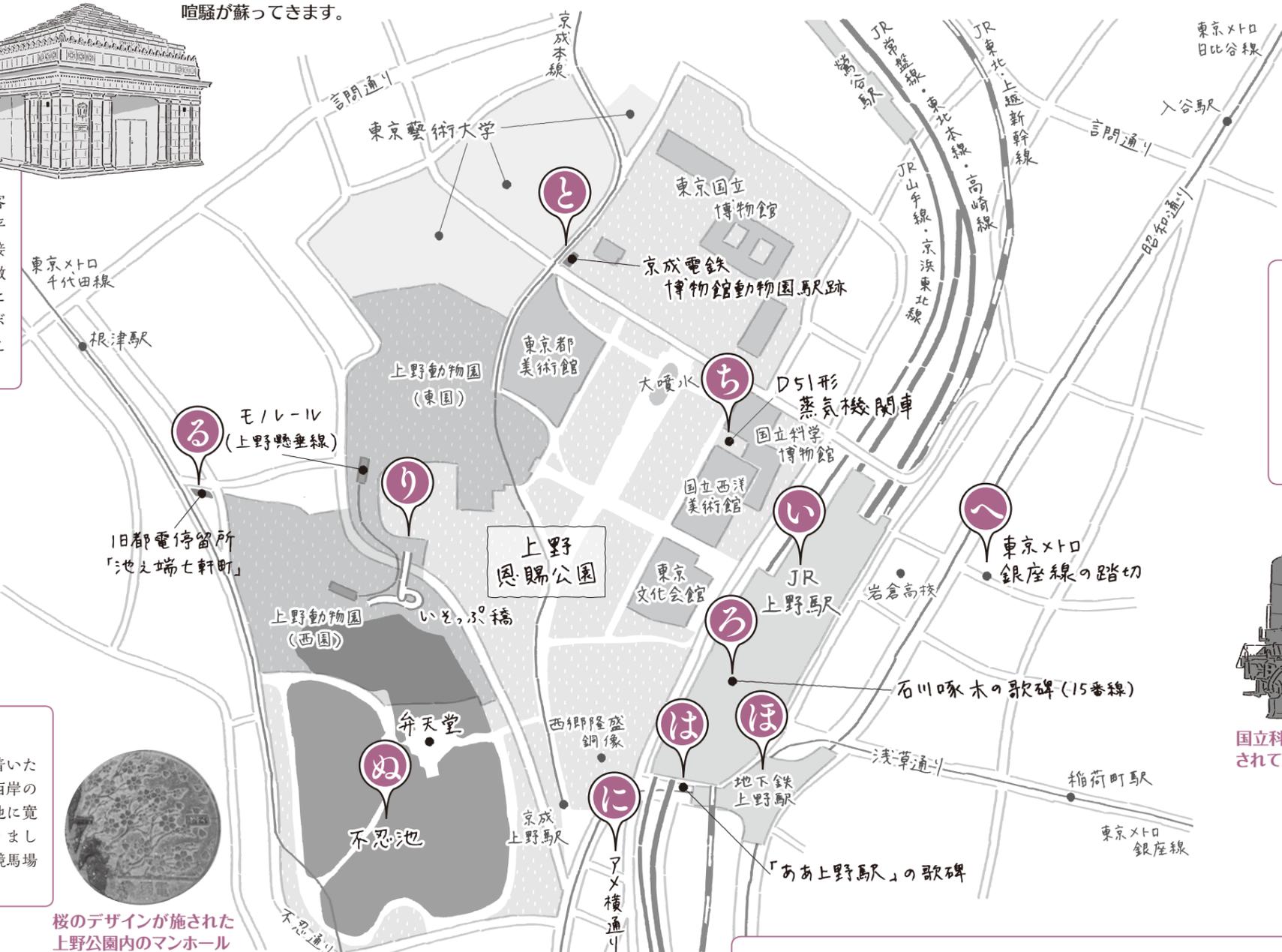


ほ



●生まれ変わった銀座線上野駅

銀座線上野駅の地下通路の柱は木製のパネルで覆われ、木のぬくもりが落ち着いた雰囲気。所々に「Ginza Line Archive」というショーケースが設置され、開業当時に駅の壁面として使われていたスクラッチタイルの実物などが展示されています。「回転改札」もその1つ。当時の均一運賃だった10銭硬貨を投入すると十字のバーが回転し入場できる改札機のレプリカです。時折、くるくと回る様子を見ることができます。





スーツ姿の会社員、キャリーケースを持った旅行者など、多くの人々が行き交うJR上野駅の中央改札。電光掲示板の更の上を見上げると大きな壁画、猪熊弦一郎筆『自由』が目に入る

■レトロモダンな上野駅をじっくり観察

JR上野駅の1階ホームは東北本線（宇都宮線）、高崎線の起点。東京の北の玄関口ですが、いまや東北新幹線が開通し、玄関口という言葉は相応しくなくなったかもしれません。それでも、15番線にある歌碑に刻まれた「ふるさとの訛なつかし停車場の人ごみの中にそれを聴きにゆく」という石川啄木の一首が往時の佇まいを伝えています。現在は方言どころではなく、外国語が飛び交う一大ターミナルになりました。



上/石川啄木の歌が刻まれた歌碑。JR上野駅15番線の車止めの前にあり、毎日多くの人たちが横を通り過ぎてゆく
左/JR上野駅広小路口すぐにある「あゝ上野駅」の歌碑。説明書きの下には短いレールが敷かれているなど、凝ったデザインである

この1階のコンコースから中央改札を出ると、洗練されたショップやレストランが軒を連ねています。かつて待合広間と呼ばれていた大空間。薄暗かった中央改札口は2002（平成14）年に改修され、透光性の高いシートで覆われた天井から、柔らかな光が降り注いでいます。解放感に満ちた明るい空間に変貌しましたが、屋根を支える特徴的な山型のトラスは開業当時のままです。中央改札ゲートの上から行き交う人を見守る巨大壁画、猪熊弦一郎画伯による『自由』も修復され、もとの位置に収められています。

大規模改修で明るく便利になった上野駅ですが、目を凝らすといたるところに旧駅舎の構造物が残っていることが分かります。足を止め、そうした名残に思いを馳せるのも一興です。

■アメ横の耐震補強の鉄板に技術の痕跡

広小路口から駅舎の外へ出ると、ガード下に立つ立派な碑が目に入ります。「どこかに故郷の香を乗せて入る列車のなつかしさ 上野はおいらの心の駅だ」。高度成長期の昭和30～40年代、上野駅に降り立った金の卵と呼ばれた若者たちに向けられた応援歌、『あゝ上野駅』の歌碑でした。1964（昭和39）年発表、井沢八郎さんのヒット曲です。

この歌碑を覆う大ガードが上野大通り架道橋。薄暗いなか、目が慣れてくると大正期の高架橋が現役でJRの線路を支えている構造がよく分かります。

横断歩道を渡ると「アメ横」の入り口。衣料雑貨店や飲食店が約400店舗も立ち並ぶ、いまや観光スポットになった商店街は今日も大盛況です。名店「もつ焼き 大統領」も昼下がりからはほぼ満席。ここはぐっと我慢してカオスのなかに足を踏み入れました。

ここで注目したいのは高架下の耐震補強工事。1995（平成7）年の阪神・淡路大震災、2011（平成



左上/JR上野駅の広小路口、また地下鉄への出入口のある中央通りまたぐように架かるのが上野大通り架道橋。1925（大正14）年に最初の高架橋がつくられ、以降昭和初期までにはほぼ現在の姿となった
 左下/恩賜上野動物園の東園と西園を結ぶ「いそっぷ橋」。並走するモノレールを間近で見られることもできる
 右上/日本唯一の地下鉄の踏切。検査やメンテナンスが必要な車両が、ここを通過して上野検査区に入っていく
 右下/池之端児童公園に残された都電7500形。かつて都電の停留所だったこの地のランドマークとなっている

23) 年の東日本大震災を契機として都市部を中心に鉄道構造物の耐震性を向上させる取り組みが加速しました。ここアメ横も例外ではありません。5年ほど前から高架下の店舗エリアで耐震補強が始まりました。大正から昭和初期にかけて建設された高架下の店舗エリアでは、柱に鉄板を巻きたてて補強した跡が随所に見られます。肩を寄せ合うようにひしめく店舗と店舗の間隙に、どうやって鉄板を施工したのか。しばし足を止めて考えてしまいます。

■動物園を横断する公共交通路線

再び上野駅の大ガード下に戻ってきました。この架道橋下から地下へと下るなだらかな坂は地下鉄銀座線への連絡通路です。太平洋戦争後は傷痍軍人や親を失った孤児たちがここで寝泊まりしていたそうです。歩道の石畳や欄干が磨き上げたように光っていました。

地下鉄銀座線は昨年上野～浅草間の開通から90周年を迎え、これを機に各駅でリニューアルが進行中。下町エリアと位置付けられた浅草駅から神田駅間の改修は一部を除いて概ね完了。上野駅も様変わりしました。通路や改札は銀座線のラインカラーである淡いオレンジの照明が配され、柔らかな光に包まれています。

東京メトロ（東京地下鉄株）の本社ビルから地上へ

出て、昭和通りを300mほど北上、路地を入ったところに日本で唯一の「地下鉄の踏切」があります。ここにある上野検車区に、メンテナンスする車両を引き込む踏切です。物静かな一面に地下鉄踏切の遮断機。シュールな風景です。

ここから西側へ駅をまたぐように大きな跨線橋を渡ると上野恩賜公園に出ます。園内の上野動物園では昨年6月に生まれたパンダのシャンシャン目当ての長蛇の列を横目に、東園と西園を結ぶモノレール駅へ。上野動物園モノレールの正式名称は上野懸垂線。日本で初めて開業したモノレールです。動物園の付帯設備ではなく、東京都交通局が鉄道事業法に基づいて運用されるれっきとした公共交通機関です。徒歩で西園に向かうには美しいループを描く「いそっぷ橋」で。その造形もなかなかのものですよ。

西園の池之端門から場外に出ると閑静な住宅街。その一角に突如現れるのは都電7500形の実物。この池之端児童公園はかつて都電20系統の停留所（池之端七軒町）があった場所ですが、1971（昭和46）年の廃止に伴い停留所も姿を消し、ランドマークとしてこの7506号車が残されました。マンションの陰にひっそりと佇むその姿。どことなく哀愁が漂う今回の散歩の終点になりました。